
マスカレイド・ミミ

西崎想

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マスカレイド・ミミ

【Nコード】

N5233Z

【作者名】

西崎想

【あらすじ】

目の見えない少年、俊。

それを、悪い奴らから、守ろうとする、ミミ。

俊は、何かを持っている。

それを、うれしく思う、ミミ。

彼を、守らないと……。。

そうして、

彼女らの戦いが、始まる。

星の言葉（前書き）

俊を、守ってください、
ミ
ミ
私はそう思っています。

星の言葉

星が言う。

人は感情の生き物

と、

また、

星は言う

生きなさいと、

力強く。

ミミは少年を見て、こう思う、

かわいそう……目が見えないなんて……、

少年の名前は、

俊^{とし}。

「俊、学校には……行かないの……?」

俊は無言……、

ミミは思う、

俊……外で、みんなと遊ぶ……事も出来ないなんて……

「俊、いい香りでしょう?」

ミミは、俊に、香水を嗅がせた。

うなずく、俊。

「これ、お母さん香り」

俊は言う。

「そう、よくわかるわね、俊」

ミミは嬉しい。

俊は、何かを持っている。

それを、狙うやつらがいる……

それらから、

私が、守る。

仮面舞踏会

俊は目が見えない代わりに、他の機能は人より発達していた。

ミミは彼に、何かを掴んでほしかった。

ミミは、違う星から来た。

そして、ミミと一緒に、悪いスイーターマンというやつらも、やってきてしまった。

そして、それらは、ミミにコンタクトを取って来た。

ミミは、スイーターマンの事は「関係ない」とタカをくくっていた。

しかし……

「俊？」

今までいてた、俊が何処かに行ってしまった。

ミミは心配になった。

外は危ない。

ミミが俊の家の外に出た。

その時だった。

空間が歪む。

こんな経験は、今までなかった。

困惑するミミ。

目を開けると、

そこは、パーティー会場。

仮面をつけて、ドレスアップした人たちが踊っている。

人？

いや、

スイーターマンたちだ。

「俊！」

ミミは俊を探した。

すると、スイーターマンは、ミミに剣で、突き刺そうとした。

キーン………！

ミミは、自分の武器、「魔法の杖」を出して、応戦。

「俊！いるの？どこなの！？」

ミミは叫ぶ。

俊は、ミミに駆け寄った。

「ミミ！」

「俊！大丈夫だった？」

「うん……でも、ここ、どこなの？」

俊は目が見えない代わりに、空気の流れを読むことができた。

「なに？この……すえた臭い」

「すえた？」

「うん、こんな匂い初めて嗅いだよ」

スイーターマンが、ミミから俊を奪おうとする。

ミミは、杖で、スイーターマンを刺した。

「キフアア……！」

そう叫んだ、スイーターマンは、破裂した。

「俊！こつちよー！」

俊の手を掴んで、ミミは走った。

そして、

「星よ、輝きたまえ！」

杖から、何かの気流が生じる。

「アクア・サイクロン！」

幻の水が、スイーターマンを流していく。

空間が歪んだ。

「俊！」

そこは、俊の部屋。

俊の手を掴んでいたミミは、安堵のため息を吐いた。

「もう、大丈夫よ。俊」

「うん、ミミ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5233z/>

マスカレイド・ミミ

2011年12月18日03時50分発行